

県内各地域の農業・農業者の動向報告（4月）

農産園芸課農業革新支援G

○新規就農者らが柑橘栽培の基礎を学ぶ

地域農業室しまなみ農業指導班と産地育成室岩城技術普及グループは3月26日、JAおちいまばりと連携し、上島町岩城の新規就農者ら6人を対象に農業基礎講座を開催した。

当日は、JAおちいまばりの防除指針をもとに、柑橘栽培で問題になっている病害虫と、それらに対応する防除薬剤や耕種的管理等について説明した後、岩城実証圃で間伐の重要性と剪定作業の実習を行った。

参加者らは、「こんなにたくさんの薬剤をなぜやらないといけないのかと思っていたが、正品を作るためには必要なのだとわかった」、「我が家の樹園地は樹が混みすぎているから防除がうまくいかないのか」などと話し合い、熱心に質問していた。

指導班は、関係機関と連携しながら、次年度も研修会を実施し、新規就農者らの知識と技術の向上を図る。



防除指針を学ぶ



間伐と剪定を実習

（しまなみ農業指導班）

○ハウスレモン栽培振興のための研修会を開催

今治支局地域農業室しまなみ農業指導班と産地育成室技術普及グループは3月28日、上島町岩城駐在所でハウスレモン栽培の研修会を開催し、上島町岩城の栽培者ら14人が出席した。

今回の研修は、町によるレモン苗木の配布を機に、ハウスレモン栽培者からの要請を受けて開催したもの。

当日は、実証圃場で間伐や誘引主体の剪定について説明した後、低樹高化した樹と放任状態の樹を比較した。その後、参加者の園地を巡回し、間伐の実施状況などを見て回った。

参加者らは、「間引きや誘引をすれば、確かに整品ができるはずだ」「自分のハウスは混みすぎているのでどうすれば」と話し、今後の栽培について意識を新たにしていた。

指導班と技術普及グループは、しまなみ地域の柑橘農業振興を図るため、農業者への指導を継続する。



○宇和島の特産柑橘を消費者にアピール

えひめ南農業協同組合は4月15日、「ブラッドオレンジ&宇和ゴールドフェア2018」を、同市の道の駅みなとオアシスうわじま「きさいや広場」で開催した。これは、南予地方局との共催で、宇和島市特産のかんきつ類の消費宣伝を目的としたもの。

会場では、ブラッドオレンジや宇和ゴールドの試食・試飲や、それらを利用した加工品が販売され、宇和島の特産柑橘の魅力を訪れた消費者にアピールした。また、当日は宇和島港へ入港したクルーズ客船からの外国人観光客も多く、興味深かそうに試飲していた。

主催のJA職員は、「ブラッドオレンジや宇和ゴールドは宇和島を代表する柑橘として市場から注目され、産地活性化に大きく貢献している。これからも消費者の期待に応えたい」と力強く話した。

産業振興課は、平成29年から夏季販売仕向けかんきつ品質安定化事業（局予算）に取り組んでおり、この2品種の販売を夏季まで拡大すべく支援する。



ブラッドオレンジの
試食・試飲

夏季販売仕向けかんきつ品質安定化事業（南予地方局予算）：生産者に対する意識啓発や生産安定対策による貯蔵向け果実の生産安定・品質向上に取り組むとともに、PR活動による認知度向上を図ることにより、高値販売が期待できる7月～8月初旬の販売を実現する。

(南予地方局産業振興課 地域農業育成室)

○愛南町で水稲早期「コシヒカリ」の田植えが進む！

愛南町では、県下で最も早い早期米の田植えが最盛期を迎えている。

3月中旬以降天候に恵まれたことから苗の生育も順調で、例年並みの3月下旬から田植えが始まった。同町の水稲作付予定面積は410haで、「コシヒカリ」が全体の2/3を占める。なお、刈取りは8月上旬で、お盆前の新米として出荷される。

指導班では、早期水稲作の肥培管理や病虫害防除などの管理指導を行うとともに、関係機関と連携して、水田の有効利用促進による裏作野菜の産地振興を図り、農家所得の向上を支援する。



乗用田植機による作業状

(愛南農業指導班)

○新居浜・西条地区生活研究協議会が男女共同参画に意欲

西条・新居浜地区生活研究連絡協議会（19グループ、85人）は4月16日、東予地方局で平成30年度通常総会を開催した。

総会では、協議会会員が農業・農村の担い手として、技術伝承や情報発信に取り組み、パートナーシップ農業の実現や男女共同参画の地域づくりを目指すこととなった。

総会後に実施した研修会では、愛媛県農業指導士の大程幸子氏が「男女共同参画社会の実現に向けて」と題し、女性の経営参画や地域の活性化について講演。参加者からは、家

族経営協定の締結やグループや協議会の立ち上げについて、活発な質疑応答が展開された。



総会風景



大程氏による研修会

(東予地方局産業振興課 地域農業育成室)